

施工要領書

W-011

「GHハイブリッド」

1. 外壁施行
現況



1. 内壁施行
現況



2. GHハイブリッド
設置



2. 既存壁解体



3 仕上げ下地



3 GHハイブリッド
設置



4. 仕上げ



4. 仕上げ



施工要領書

W-018

TRCダンパー制震工法 (TRC-30W)

1. 天井、床、壁解体

- ・ダンパー取付部の内装材等を除去し、柱・梁・土台を現す。



2. TRC-30W取付

①ダンパーの組立て

- ・ダンパー本体、延長木材(2本)を、木ネジ ショートにて接続する。
- ・延長木材は、ダンパーの両側で、差し込み部の形状が異なるので、注意すること。

②ダンパーの長さ調整

- ・延長木材を切断することで、全体長さを調整する。
- ・取付部の対角線とダンパーのセンターが一致すること。
- ・両端の切断長さは、ほぼ均等にすること。

③ブラケット、ダンパーの設置

- ・ダンパーをフレーム面内に配置した後に、ブラケットを設置する。(先にブラケットを施工すると、ブラケットと干渉してダンパーが設置できないため。)
- ・延長木材側の突起は、延長木材に切れ込みを作り、その中にブラケットの突起を取入れ、付ける。
- ・上下とも各1ヶで、対角に取付ける。
- ・ダンパーと、先に取付済みのブラケットを、木ネジショートにて接合する。(上下とも)
- ・柱の外部に飛び出した、ブラケットの突起部分をハンマーで叩いて曲げ、柱内にブラケットを収める。

①ダンパーの組立



②ダンパーの長さ調整



③ダンパーの設置



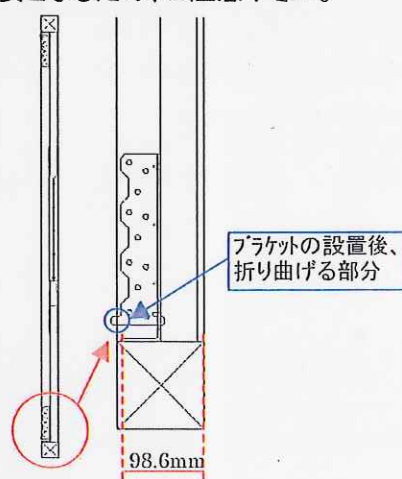
3. ダンパー施工完了



4. 筋かい設置
5. 下地材設置
6. 仕上材設置
7. 完成

8. 特記写真

- ・ブラケットの施工位置を誤ると、ダンパー部が面外にはみ出す可能性があります。ブラケットが設置される仕口部には、ブラケットの厚み(47mm)と延長木材の厚み(45mm)が必要となります。またダンパー部は、延長木材よりも6.6mm外側に位置するため、ダンパーが面外にはみ出さないためには、合計で98.6mm必要となるため、ご注意ください。



施工要領書

W-018

TRCダンパー制震工法 (TRC-10S)

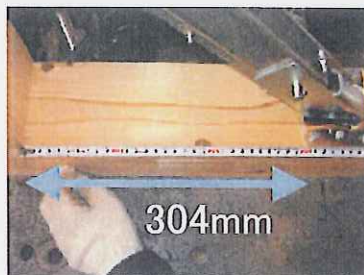
1. 天井、床、壁解体

- ・ダンパー取付部の内装材等を除去し、柱・梁・土台を現す。



2. TRC-10S取付

- ・柱から、304mmの位置にダンパーの金具を合わせて、土台(もしくは梁)に、木ねじを1本止める。
- ・柱側にも金具をあてがい、金具が面で接触するように角度を微調整する。
- ・木ねじを全てねじ込む。



3. ダンパー施工完了

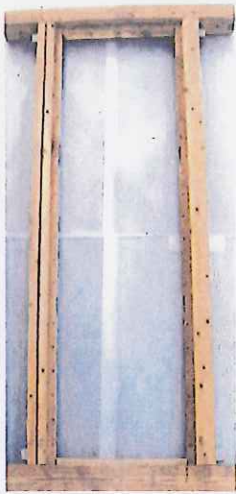


4. 合板材設置
5. 下地材設置
6. 仕上材設置
7. 完成

施工要領書

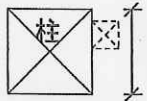
W-020

複合鋼板耐震壁「セーフティーウォール工法」



1 受材設置-1

軸組みに45角の木材を施工
同梱包の専用ビス使用



取付け位置は柱内寸で
あれば自由



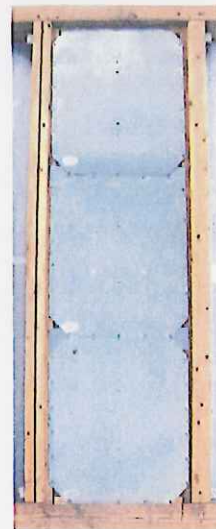
4 補強鋼板設置

胴受け材に補強用鋼板を施工
N45の釘を使用



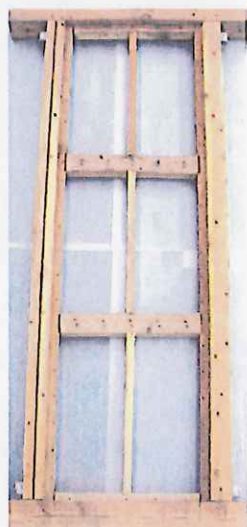
2 受材設置-2

胴受け材の施工、梁-大引き間
寸法を3分割した位地に120×
45材を取付ける



5 パネル設置

制震パネルを施工
同梱包の専用ビスを使用



3 受材設置-3

中央に45角の間柱を設置

施工要領書

W-025

木造SRF 壁補強工法

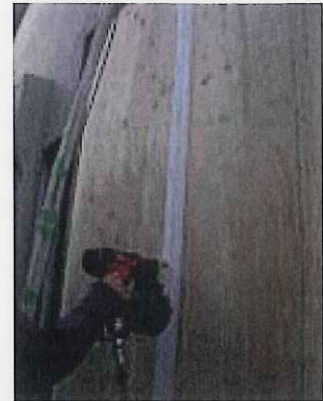
1. 現況



5. 釘増打ち

高延性材の上から、釘N50@150mm以下で増打ちする。

ただし、構造用合板に直接釘打ちした釘と合わせて、間隔が75mm以下となるように予め釘位置の墨出しを行う。



2. 仕上材撤去

補強する部位(柱・梁・土台)の劣化状況を確認し、著しい劣化が有る場合は交換を行う。



6. 補強完了

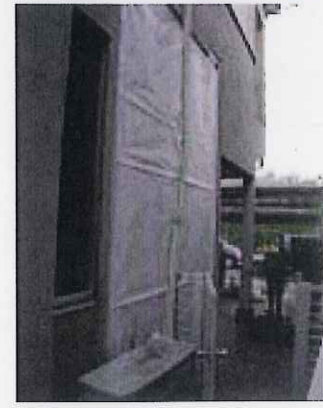


3 構造用合板設置

釘N50@150mm以下で釘打ちする。



7 仕上材設置



4. 高延性材設置

手あるいは、ローラー等にて、接着剤を馴染ませ、触診にて、高延性材と補強対象部材が密着していることを確認する。



8. 完成



施工要領書

W-005

ダイライト耐震かべ「かべ大将」

1. 既存仕上げ材の撤去



床と天井は原則そのままの状態

2. 柱頭補強金物取付け



金物を付けにくい場合、天井部分撤去

3. 横棧(パネル下地)の取付け



同梱の合板横棧を金物と釘で固定

4. 横棧設置完了



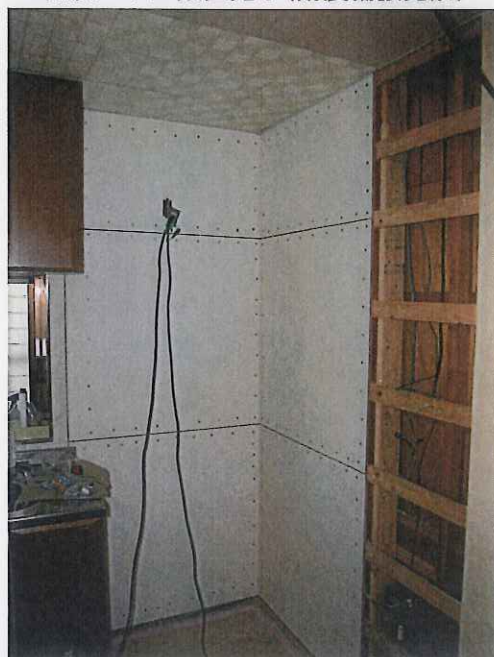
床～天井間に4本設置

5. 耐震パネルの取付け



下から順にパネルをビス留め

6. 耐震パネル設置完了(耐震補強完成)



この後クロス仕上げで完成

施工要領書

W-026

タオレンジャー(収納家具)用 耐震ボード

1. 仕上材撤去

復旧が必要な床、天井の解体はありません



4. 耐震ボード設置

タオレンジャー用耐震ボードを取り付けます



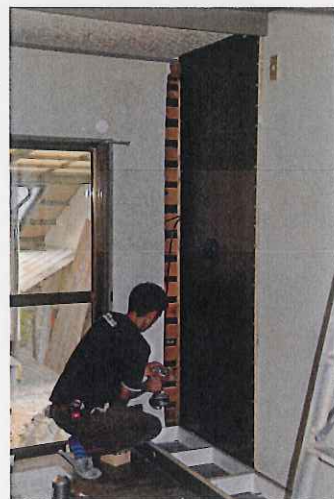
2. 柱・梁金物取付

接合金物がなかった場合金物を取付けます



5. 耐震補強終了

ビス穴は、あらかじめ、工場で開けられています



3. 添柱設置

柱に添柱を取付けます

添柱



6. 仕上家具取付け

耐震ボードの仕上げにタオレンジャー収納家具を取付けます



施工要領書

W-004

「耐震ポール」工法

1. 埋設配管などの調査



7. 外部金物取付け およびシーリング



2. 耐震ポール基礎の 試堀



8. 耐震ポールの建込み



3. 掘削土サンプリング



9. 内部補強金物の 取付け



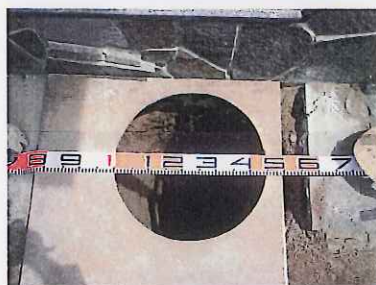
4. 接合部・点検口の調査



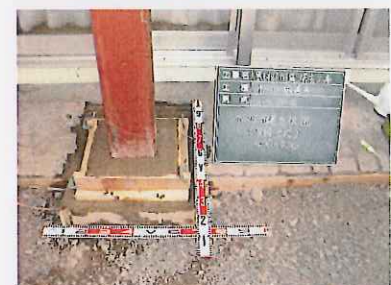
10. 通しボルトの本締め



5. 耐震ポールの位置 出し



11. 基礎コンクリートの 打設



6. 剣付スコップによる 掘削



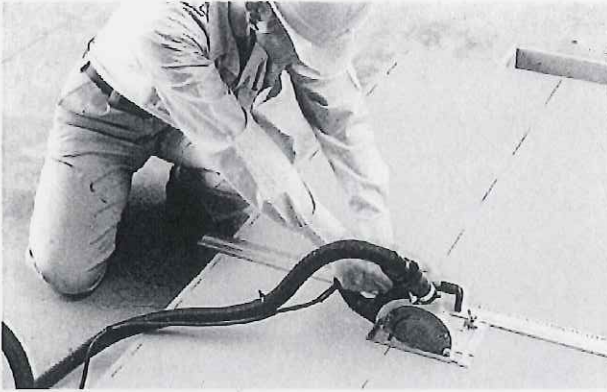
12. 仕上げ塗装



施工要領書

W-015b

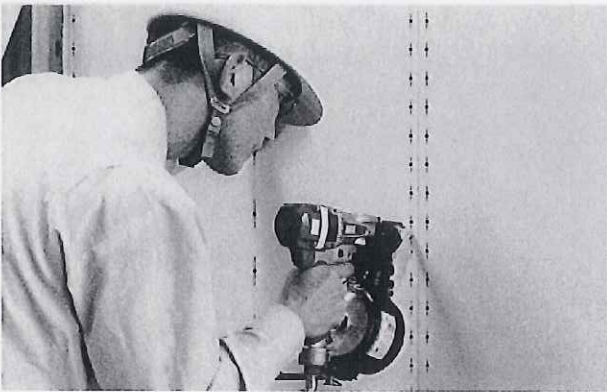
外装下地耐力面材「あんしん」



木工用ののこぎりや電動丸ノコで切断できます
電動丸ノコ使用時は集塵機の使用をお勧めします



必ずN50の釘を使用し、所定のピッチで留め付けてください



釘頭がめり込みすぎないように、エアネイラの圧力を調整してください



防水紙の施工は、ステープル(@300mm以下)・両面防水テープ・透湿防水用スプレーのいずれかを使用してください



施工状態 近景



施工状態 遠景

施工要領書

W-024a

外付耐震補強工法 ガンコモンG1

モルタル外壁の上から施工する仕様

1.ガンコモンG1
搬入時



5.ガンコモンG1施工
胴縁



2.施工箇所現況



6.サイディング張
状況



3.モルタル外壁の上
からコーチボルト
で緊結



7.仕上



4.ガンコモンG1
取付



8.コーナー水切り



施工要領書

W-024b

外付耐震補強工法 ガンコモンG2

1. ガンコモンG2
搬入時



5. 配筋



2. 施工箇所
根切り



6. コンクリート打設



3. あと施工アンカー
掘削孔



7. 仕上塗装



4. ガンコモンG2上部
鉄骨フレーム取付
モルタル外壁の上
からコーチボルト
で梁に緊結。
LアングルをH.T.B.
で組立、鉄骨フレー
ムを造る。



施工要領書

J-002

ジャブラ「JBRA-1システム」



1.下地の汚れ落とし
ブラシで木部面を軽くしごく



2.接着剤の準備-1
接着剤パックの中央レバーをはずす



3.接着剤の準備-2
主剤・硬化剤を緑色になるまで混ぜ合わせる



4.接着剤の下塗り-1
シートの貼る長さを墨出しし、ヘラで接着剤を少量ずつ木部面に塗布する



5.接着剤の下塗り-2
ヘラで接着剤をのぼす



6.シート接着
シートの片側をヘラで固定しながらのぼす



7.接着剤の含浸
ヘラで上下方向にしごく(軽いたたくと下塗剤がシート上へ染み込んでくる)



8.接着剤の上塗り-1
ヘラで接着剤を少量ずつシート面に塗布する



9.接着剤の上塗り-2
ヘラで接着剤をのぼし、シートへ含浸させる



10.完了
ヘラで接着面を平滑にする